

## 令和3年度以降の増殖指示量の変更

漁協名	変更希望魚種	増殖方法	指示量		変更希望理由
			現行	変更	
佐久	うぐい	卵ふ化放流	60kg※	0kg	<p>◆組合員の高齢化等により、年々つけ場の設置数が減少し、うぐい卵の集荷が困難となっている。</p> <p>※事務局補足事項：うぐいについては卵ふ化放流のほか、種苗放流（増殖指示量：120kg）を実施しており、指示量以上の放流を行っている。</p>
	やまめ	種苗放流	630kg	640kg	<p>◆現在、組合経営の改善のため、溪流漁場の活用を進めているところであり、うぐいの卵ふ化放流減少分についてはやまめの種苗放流へ充てたい。</p>
奈良井川	あゆ	種苗放流	500kg	400kg	<p>◆毎年50人ほどが組合を脱退しており、あゆの増殖事業費の確保が難しい状況にある。</p> <p>◆河川では、悪天候が続き、ミズワタクチビルケイソウの繁殖などの影響で成長がみられない、下流に流れるなど、あゆ漁の投資対効果が見込めない環境がここ数年続いている。</p> <p>◆遊漁者の減少により、おとりセンターの電気代、人件費など財政的に大きな負担であり、維持が困難。 （おとり鮎を用意しても、長期間飼育となり、冷水病等のリスクも高くなる）。</p>
	にじます	種苗放流	20kg	100kg	<p>◆遊漁者からの要望が多いにじますを放流し、経営改善を図るとともに、遊漁者のニーズに応える漁場づくりをしていきたい。</p>
犀川殖産	あゆ	種苗放流	100kg	50kg	<p>◆かつてあゆを中心として組合運営を行ってきたが、メッカであった小田切ダムの下流域の河川環境が変わってあゆが釣れない状況になる等、平成16年以降、あゆ漁は不振を極めている。</p>
	にじます	種苗放流	425kg	475kg	<p>◆組合員も年々減少し、賦課金収入が減少する中、にじますに活路を見出し、組合運営を安定させてきた。</p> <p>◆遊漁者からもにじますをもっと多く放流してほしいとの要望が多く、質の良いにじますを放流し、組合運営の更なる安定化を図りたい。</p>

漁協名	変更希望魚種	増殖方法	指示量		変更希望理由
			現行	変更	
木曽川	あゆ	種苗放流	600kg	100kg	<p>◆あゆについては、令和元年、令和2年と豪雨により、解禁前に種苗が流され、遊漁できない状況になった。</p> <p>◆遊漁者の激減、行使者の減少により、あゆ漁の赤字が続いている。</p> <p>◆近年の異常気象を鑑み、あゆ漁以外に移行し、組合経営の安定化を図りたい。</p> <p>◆当組合の強みである溪流魚を中心に産卵床造成数の増加、種苗の放流量の増加により対応していきたい。</p>
	うぐい	産卵床造成	5か所	12か所	
	かじか	産卵床造成	10か所	12か所	
	あまご	産卵床造成	10か所	12か所	
		種苗放流	650kg	800kg	
	いわな	産卵床造成	10か所	12か所	
種苗放流		700kg	800kg		
天竜川	あゆ	種苗放流	2,500kg	1,500kg	<p>◆ここ数年の異常気象により、放流直後に大雨となり、増水によってほとんどが流されてしまうため、効果的な放流が困難となっている。</p> <p>◆組合員の高齢化など鮎釣り人口が減少していることに加え、大雨による濁りにより釣り自体できない日が多く、収入が減少している。</p> <p>◆造成直後に大雨により流されてしまい、効果的な産卵床造成が困難である。</p> <p>◆にじますは近年遊漁者からの要望が多い。</p> <p>◆あまごはそのきれいな姿から、いわなは大きなものが釣れることから人気があり、これらの溪流魚は多くの遊漁者に対して訴求力があると考えている。</p> <p>◆卵埋設放流は確実に孵化していることを確認しており、効果があると考えているため、規模拡大に取り組みたい。</p> <p>◆種苗放流では稚魚・成魚のほか、親魚を放流し、定着を図るとともに費用対効果の高い増殖手法に取り組みたい。</p>
	うぐい	産卵床造成	5か所	1か所	
	にじます	種苗放流	80kg	100kg	
	あまご	卵埋設放流	10万粒	20万粒	
		種苗放流	400kg	600kg	
	いわな	卵埋設放流	10万粒	20万粒	
種苗放流		80kg	400kg		